

恵海著「天馬のように飛躍する年に」大機小機、日本経済新聞、2013 年 12 月 27 日朝刊を読む

天馬のように飛躍する年に

1. (1) 今年のアベノミクスの「3 本の矢」と 2020 年の東京五輪開催決定が、日本を覆っていた閉塞感を払拭した。
(2) 長期デフレからの脱却や経済成長も展望され、アジアにおいて信頼される国として発展してゆく基盤を固めた年といえよう。
2. (1) 14 年は、安全保障面を含めこの基盤を更に強固なものにする年だ。
(2) 来年の干支(えと)は馬。
(3) 「翼をもつ天馬のように跳びはね、世界から信用され、頼られる国」となる第一歩としたい。
3. (1) 黒田東彦日銀総裁による異次元緩和策は、市場参加者の期待を劇的に変化させた。
(2) 為替・金融・資本市場に大きな効果を発揮し、日本の金融政策に対する内外の信頼を高めた。
(4) これをさらに浸透させるには、3 年目以降の政策目標と達成の複数シナリオを、経済情勢によって変化するという前提条件付きで提示することが期待される。
4. (1) また、市場の期待の自己増殖や意図せざるショックを回避するために、総裁記者会見に論説委員クラスのベテラン記者の参加を促し、十分な対話を行うことも必要であろう。
(2) 日本的フォワード・ガイダンスが世界のモデルとなるよう工夫を凝らすべきだ。
5. (1) 社会保障関連支出の削減は日本の命運を左右する重大な問題だ。
(2) 年金給付開始年齢の引き上げ、高所得者の医療費負担増などを「国家百年の計」を踏まえて実行することが、基礎的財政収支の均衡を実現し、世界の信頼を得ることとなる。
6. (1) 成長戦略の成否は、高度な最先端技術の開発・実用化に依存する。
(2) 防衛関係で十分な研究開発投資を計上することも必要だ。
(3) これにより、国内の設備投資が増加し、企業収益の改善、雇用機会の飛躍的増加、所得の増大、税収の改善という好循環が期待できる。
(4) また、原子力と代替エネルギーとのベストミックスの策定・実行が成長を確実なものにし、国家安全保障の一助となろう。
7. (1) 日本が厳しい国家間グローバル競争に勝つための方策のひとつは、外貨準備の運用益や公的年金を原資とする「日本版ソブリン・ウェルス・ファンド」の設立だ。
(2) これにより、シェールガスなどのエネルギー源や希少資源、超高度な先端技術、大牧場などの購入・投資が可能となる。

8. 来年は、「**国家百年の計**」を踏まえ、日本が大きく飛躍するチャンスだ。

[コメント]

日本を代表するエコノミストの「恵海」氏が 2014 年の日本経済の歩むべき道を示す日本経済新聞 2013 年 12 月 27 日掲載の「大機小機」は、熟読すべき第一級の経済コラムだ。太字部分を熟読し、どう実行するかを考えたい。

— 2014 年 1 月 31 日 林 明夫記 —